

陽の里

発行 平成12年4月1日



社会福祉法人 新生会
総合ケアセンター

サンビレッジ

No.70

2000年 **テーマ** 第二回 介護の質の向上を目指して(食事)



▲在宅利用者の方への食事サービス

生活支援の窓口 食事サービス

中村元美

当苑では、昼食・夕食をお弁当にし、届ける食事サービスを行っております。

食事は命の源です。美味しい食事を楽しんで召し上がって頂く為に、食事サービス開始前に嗜好調査をし、嫌いな物、食べてはいけない物は代替食にする等、利用者のニーズに合わせた食事を提供しております。また、対象者が食べやすいように、主食をおにぎり、おまじり(ご飯と粥のミックス)、粥、ペースト粥にしたり、副食を一口刻み(一口大に切ったもの)、刻み、ペースト食で提供することも可能です。

配食時には利用者の体調変化等を観察し、異常があれば家族や関係機関等に連絡し、緊急の対応もっております。また、利用者や家族の悩み等を聞き、支援センター等に申し送り、ヘルパー派遣、訪問看護等、必要な福祉サービスに繋げ、生活支援の窓口となるよう努めております。

食事を提供することで、自宅で住み続けたいと望まれる独居の方も安心して自宅で暮らせます。食事サービス時間の頃に玄関先で楽しみに待ってみえる方もおられ、何よりの励みです。利用者の笑顔や温かい言葉に支えられながら、本日も各々のご家庭へと車を走らせています。

第二回「介護の質の向上を目指して」

食事

現場からのメッセージ

ホームの暮らしが住みやすいと感じられる「生活の質」とは何で見る事が出来るのでしょうか。建物の様に目に見える所はよく分かりますが「介護の質」の様に目に見えにくい所もあります。サンビレッジは開苑当初から利用者の立場に立つ事を基本理念として「介護の質」の向上を目指し、取り組んできました。しかしまだまだ未完成な所を認識しております。今回第二回として、介護保険導入のこの二〇〇〇年を機に現在取り組んでおります「介護の質」を紹介していきたいと思えます。

個別対応に向けて

栄養士 杉山 千智

「食は玉の如し」という諺が昔から伝えられているとおり、食は人が生きていくかぎり、なくてはならないものである。歳を重ねるたびに、楽しみは「食べる事だ」と、答える人は少なくない。しかし、そのような食事の中でも、大なり小なり、だれしも好き嫌いは

あるものである。施設に入ったのだから、自分だけ代替食（毎日、提供する料理の中で、自分が食べられないものがあつたら、別の材料でその人が好む料理を作ること）を作つてほしいと思つても、言い出せず我慢をしている利用者が多いに違いない。施設はあくまでも家庭の延長であり、家庭で毎日食べていた食べ物もあるのではないか。という

思いから、嗜好調査の見直しを進め、一人ひとりの嗜好に目を向け、毎日の食事内容に反映しようと考えた。嗜好調査により、代替食や個々に合わせた食事形態の必要性を感じ、ヘルパーと連携し、利用者にとつてどのような関わりがベストなのかすめていく。

「施設で代替食なんて、わがままで」と考えていた数年前の我々厨房職員は、個々に聞いた利用者の要望は全利用者の声なのだと思つた。食事について考えさせられた。今では、利用者の喫食状況を時間が許す限り、自分達の日で確かめに出向き、その状況・反応を調理に活かすよう努力している。来年度より介護保険導入にあたり、選ばれる施設づくりということをよく耳にする。「この施設は、食事がおいしい」という理由で選ばれることを目指し、献立内容・料理

方法の創意工夫をしていかなければならない。今後も我々の方から利用者に目を向け、一人ひとりの食事摂取状況・病的疾患も含め、状態を知つた上でバランスを考えたい食事の心がけていかなければと考えている。利用者から「今日の料理はおいしかったよ」と声をかけられた瞬間こそが、給食業務を遂行している者の勲章であると感じている。



食べる力は生きる力

調理員 田口 友子

食べる意欲は、生きる意欲につながる。疾患のためにその意欲が失われてしまっても、こだわりは持っている。私がこのことを実感したのは、利用者の食事介助にたずさわってからである。厨房職員に、Sさんの食事介助の依頼があった時、頭を横切ったのは嚥下困難な方への介助は難しいのではというとまどいだった。しかし、同時に利用者の状態を知る良い機会でもある。そんな思いで私達の食事介助は始まった。Sさんは、思いのほかすんなりと食べてくれたが、無表情で、ただ口の中にあるものを流し込んでいる。そんなふうに見えた。けれど何日か経つうちに、時折表情が緩むのを感じた。そして、声かけに対して小声だが、確実に

ひとこと返されるようになった。この頃から、厨房内で様々な情報交換が行われるようになっていった。「何か食べたい物がありますか、って尋ねたら、『巻き寿司』って答えてくれたよ」。この時は半信半疑で、数日後のお好み食の日に、普通食で用意した。つまるのでは、

という心配もなく、全部食べて頂けた。また。みそ汁の中身の油揚げが大きすぎるとか、粥がゆるすぎるなど、具体的な話も広がっていった。私達の思いは同じだった。Sさんは決して無表情じゃない。好き、嫌いもあるし、それを意思表示できる。最近では飲み込みもいいし、



これならミキサー食から刻み食へ移行できるかもしれない。早速ヘルパーと相談し、ミキサー食と刻み食の両方を用意した。調子の良いきなら食べられるだろう。こうして、徐々に刻み食へ移行できた。今では、行事の時などに好みの物を選択して頂いている。Sさんの生活の中で、食事の占める割合は大きい。そのため、まず食事を楽しんでもらうことが一番であり、意志疎通もその中から図ることができた。「施設だから、食べさせてもらっているから、わがままは言えない」と思われがちである。しかし、「：が食べたい」という気持ちをお大切に、すぐ対応することでお食べる意欲もでてくる。時折Sさんは、笑顔を見せてくれる。そんな時、私はいつも、食べる力は生きる力なのだと思うのである。

配食への期待と楽しみ

食事サービス利用者 遠藤幹雄

私どもの日常生活の中で、食事によって楽しみが左右されることは、誰しもが体験していることです。

集団での食事は、おいしく・美しく・楽しくという三つのことが望ましいことです。わけても私ども高齢層の者は、食べることが日頃の生活の中の一中心でありながら、自分で調理したり、入手することがなかなか困難になってきます。

そのような中で、サンビレッジの配食サービスは唯一の配食サービスで、本当にありがたいと思っています。



家庭では献立を立てることも、食事を作ることも大変なことです。そういうことから日常生活の楽しみの中で、毎日の配食の時間を待つておる次第です。

私ども高齢になって、変化のある献立、変化ある調理の食事に接することの楽しみを、この配食によって充実させたいものと考えておる次第です。調理関係の皆さんはご苦労なことに推察いたしますが、配食されたとき、蓋をそつとつて子供のように胸をはずませる老人を想像してください。ことを願います。

毎日配食していただきながら、感謝する機会が無い者として、折角の機会ですので、一言お礼を申し上げます。一層のご尽力をお願い申し上げます。

大丈夫ですか？もう一度確かめてください介護保険

池田町在宅介護支援センター



介護保険に関しては新聞やテレビで毎日取り上げられています。介護サービスの相談を受けていると、まだまだ介護保険についての制度を、知られない方が多くお見えの様です。

郡内では昨年一〇月から、保険を利用されると思われる方へ申請手続きのお知らせを、役場からハガキで通知しています。通知を出すための台帳には、現在在宅サービスを使っている方、役場から福祉機器を借りている方、民生委員の皆さんからの情報等、そして施設を利用されている方を主に発送しています。四月からは、ハガキでの通知は行われず、本人・家族から直接、保険者へ申請して訪問調査を受けることになりました。

しかし、この間にも身体機能の低下が進んでいる方、障害を持たれていても家族だけで面倒が見れるとか、この程

度ならまだ良いと思われる方、あるいは独居で不安を抱えて暮らしている方々へ、もう一度介護保険についての分かりやすい説明と情報を提供することが必要と考えられます。

又、調査を受けた後に要支援、要介護と通知された方で、「介護サービスの依頼の届出書」を出されていない方は、役場、事業所へお出し下さい。

介護保険は、介護を社会全体で支える保険です。是非とも最寄りの相談窓口へご相談ください。又、お近くにそのような方をご存知の民生委員や近隣の皆さんはお声をかけてください。ご相談窓口は左記の連絡先でもお受けできます。

記

サンビレッジ新生苑内

池田町在宅介護支援センター

TEL 45・6786

FAX 45・7131